

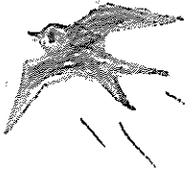
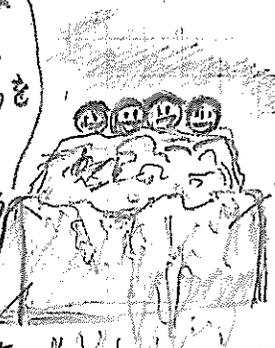
— 錦織 佳代子 —

ツバメ! 五月はじめ、朝の散歩道。空を飛ぶのき下に今年もツバメの子。かわいい〜 やがて巣立ち、巣も空き家。(孵化して20日前後で巣立つそう。)

ツバメは極地と大洋の島をのぞいてほぼ全世界的に分布する。

ツバメ、今頃は見る機会がない。

電線にズリと並んだツバメ。今頃は見る機会がない。



お寿司を食いたいとすかんたん
 作りおき寿司酢 すし酢 かんたん 松流です

昆布 1かまづ
 さとう 100g
 塩 30g

まぜて砂糖をとかしビンに保存。(常温)

① 熱いご飯にすし酢を適量まぜる。うちわであおいでかきまわす。

② だし飯に味つけのちぎりを散らす

③ 刺身 2人で1パック(600円位) カニカマも いいかな エンピツ、キャーリ、ホーレン草など

④ 即席吸物

100昆布、花かつお、梅干し、しょうゆ、少少、湯を注ぐ。

甘めの厚焼卵

読書ノート

● もうひとつのモンテレッジの物語

内田洋子 著 方丈社

ふしかな本。表紙を開くと、写真とたづねの頁が続く。裏表紙を開くと子どもが描いた絵と横書き(イタリア語を訳した文)の頁が続いてまん中切りで出会う。イタリア北部、ボルゴマジョレの近くの山の中の小さな美しい村、モンテレッジ。1600年頃から村人は大きなかごの中に本を入れて行商に出る。村の多くの人、本や本屋となんらかの形でかかわって生きてきた。その村を訪れた著者は村の子どもたちと出会い、やがて子どもたちは村の歴史を聞き、調べ、絵を描き、文章を描き本を作る。2018年、日本の子どもたちとの交流。美しい村の人たちの心ゆたかなくらし。ゆたかとはものかいつはああることではない。なんて不思議な本。たぐひんの写真も著者。



度々咲いたアジサイ

● モンテレッジ小さな村の旅する本屋の物語

内田洋子 著 方丈社 2018年刊

上に続いてこの本もどろろ! 本は大切。美しい言葉を財とする...

● 旅する日曜美術館 東海近畿、中国、四国、九州 日本の名画、名品を訪ねて「日曜美術館」制作班「NHK出版」

毎週メモ用ノト片手に観ているNHK Eテレの「日曜美術館」。この番組で記録された作家の言葉や多彩な出演者の声とともに、全国の美術館を訪ねる。私が訪れた美術館も11カ所ある。アサヒビル大山崎美術館、大和文華館、植田正治写真美術館... 愛媛の久万美術館もある。また行きたいところばかり。収蔵されている作品、作家について興味深く、読みごたえのある本。もう1巻は北海道から東日本41の美術館を訪ねる。コロナで休館の図書館が開いたのどきよく借りてきました。ゆっくり読みたい。

うちは まつ白の花。まこれいっすねえと何人もいわれた。

薪ストーブのあかり

20代半ばのころ、友と二人で初めて信州霧ヶ峰へ。リフトに乗り、車山に登ると雨が降って来た。その夜泊まる小さな山小屋。こころほくくさひゆって。小さな木のドアを開けると静かに四季が流れてきた。

今は亡きころはくくさひゆってのあじ手塚宗求さんは、おてきな方。著書もたくさんある。私は何度も訪れた。この小さなドアを開いてから、私の新しい世界が広がった。ここで出会った二人は今も大切な友。お互いに孫もでき、じいちゃん、ばあちゃんになりました。高原の風景も変わった.....

雨の6月、ドアを開けるとウグイスの「四季」が流れて

まだ20歳すぎの私。会社の昼休み、雨の中、ひとり近くの小さな喫茶店へ。静かな。あたたかいコーヒー。マヌーは。



6月9日 結婚記念日。新婚旅行はリョウ背負って信州へ。9日 長女が誕生。産室の窓に欄の緑がかかやいて。21日 夏至の日。孫の陽太郎誕生。今年3才。フィラメントは夏至祭。国中お休み。太陽をたのしむ。

車が15分。朝倉の叔母を訪ねた。101歳!! 元気!! 食欲もあり。会話も楽しい。笑顔のほっぺもふっくら。つややか。杖はいろいろ。トイも自分。私も元気がある。